

中央教育審議会 第6回教育振興基本計画部会
「グローバル」

変容する国際関係と日本の教育
—人間の尊厳と平和のための教育の役割—

2022年8月23日

杉村美紀

上智大学総合人間科学部教育学科
(比較教育学、国際教育学)

教育において「グローバル」な視点を考えるとは？

- 「諸外国の教育」についての調査・比較
- 変容する国際関係と教育のあり方についての分析
 - 国際関係が教育にどのような影響を及ぼすか
 - 教育は国際関係にどのような影響を与えるか
- 国の枠組みを超える新たな教育の模索

人間の尊厳と平和の文化を重視した教育のあり方を
総合的・多角的に考究する。

教育における「グローバル」関連の論点とその変遷

「地球市民の教育」、国際理解教育（←ユネスコ憲章）

「国際理解、国際協力及び国際平和のための教育並びに人権及び基本的自由
についての教育に関する勧告」（1974年勧告 * 現在、ユネスコにて改訂作業中）

人間の尊厳と平和
人間の安全保障

国際教育協力、教育開発

ヒト・モノ・資金・情報の国際移動

↓
多文化共生

→ 多様性をめぐる平等と公正の課題
インクルーシブな社会（包摂性）の課題

トランスナショナル教育の展開

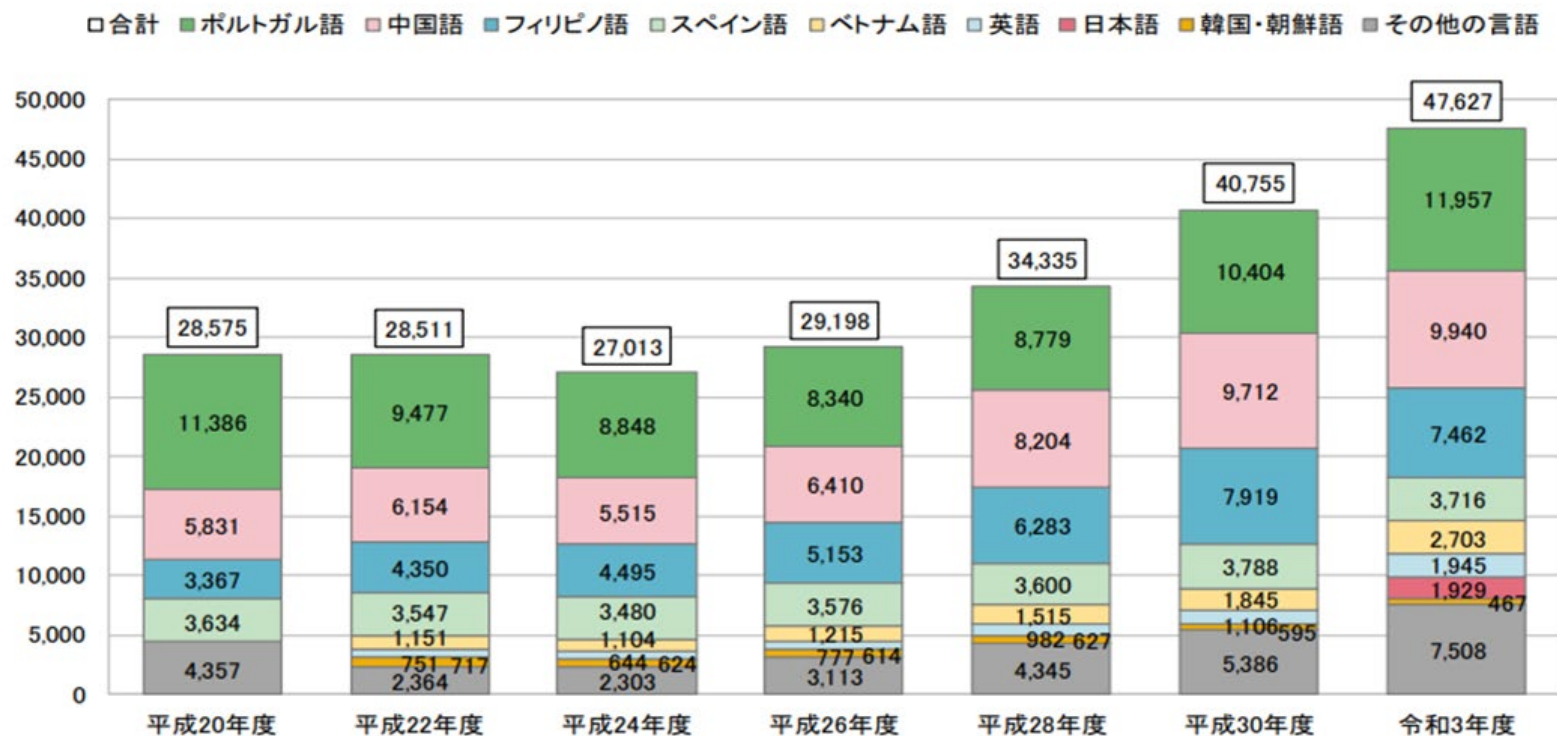
国境の枠を超えた展開と国際連携

持続可能な未来社会構築のための教育

多様化する社会と教育—外国につながる人々と教育

- 多様化する日本社会
- 外国籍・外国につながる人々の教育をめぐる課題
(日本語教育、母語継承、地域コミュニティとの連携、進学・就職問題、経済活動と外国人人材)

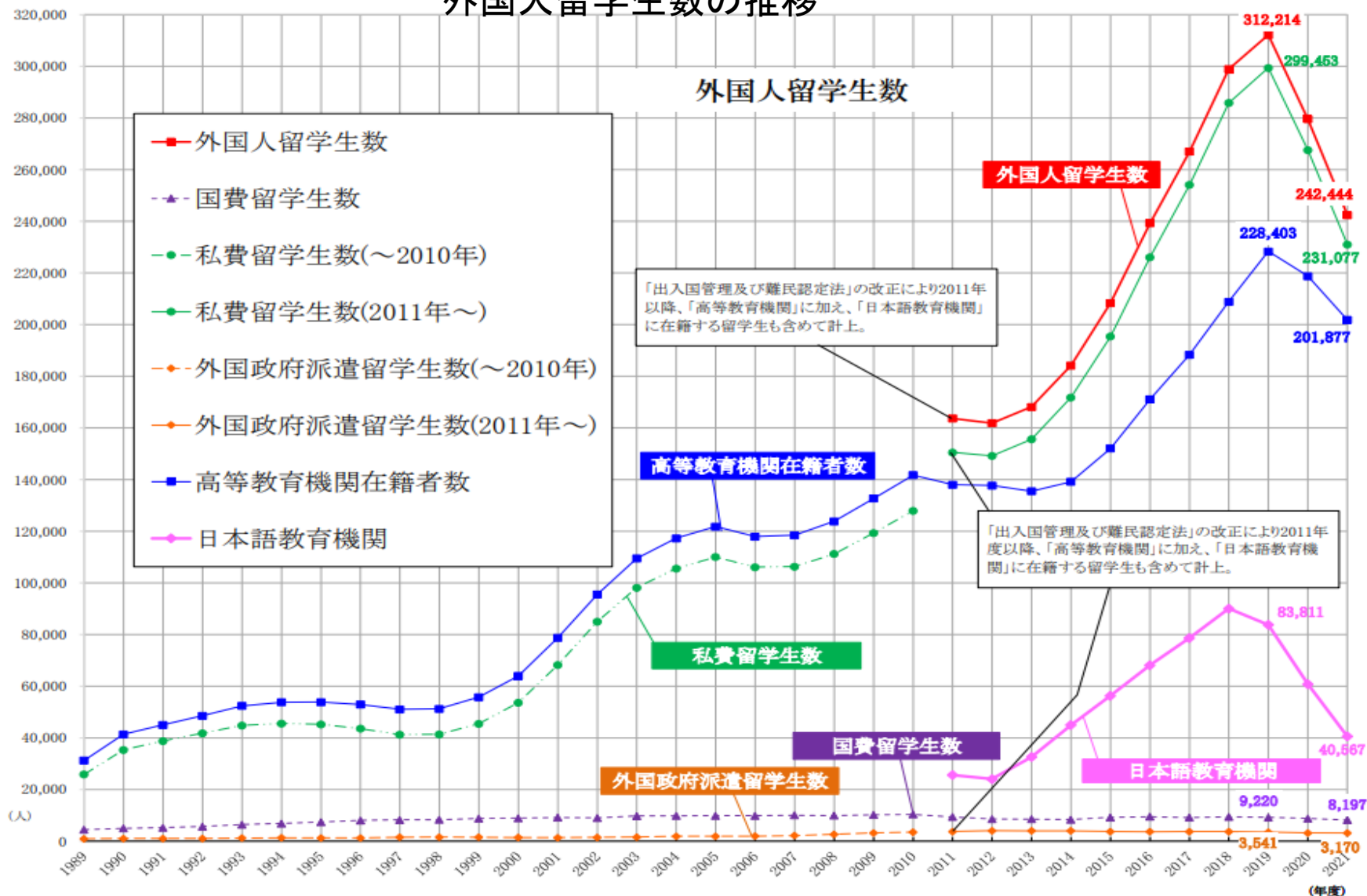
日本語指導が必要な外国籍児童生徒の言語別在籍状況



出典: 文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査結果の概要(速報)」令和4年3月、6ページ。

外国人留学生の受け入れ

外国人留学生数の推移

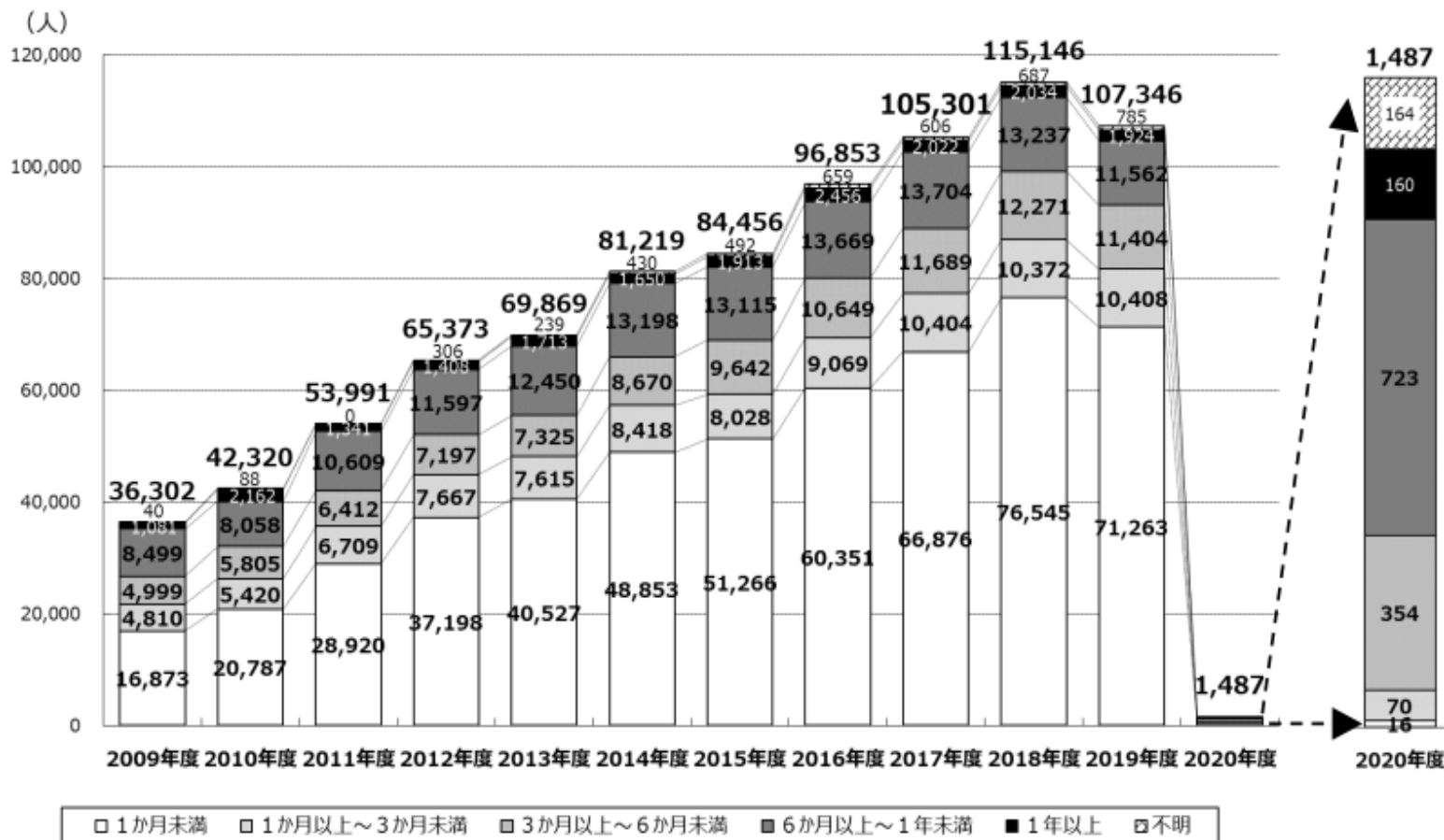


出典: 日本学生支援機構「2021(令和3)年度外国人留学生在籍状況調査結果」2022年3月、1ページ。

大学等の協定による海外への留学者数

留学期間別の日本人海外留学者数

* 大学(大学院を含む)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)対象

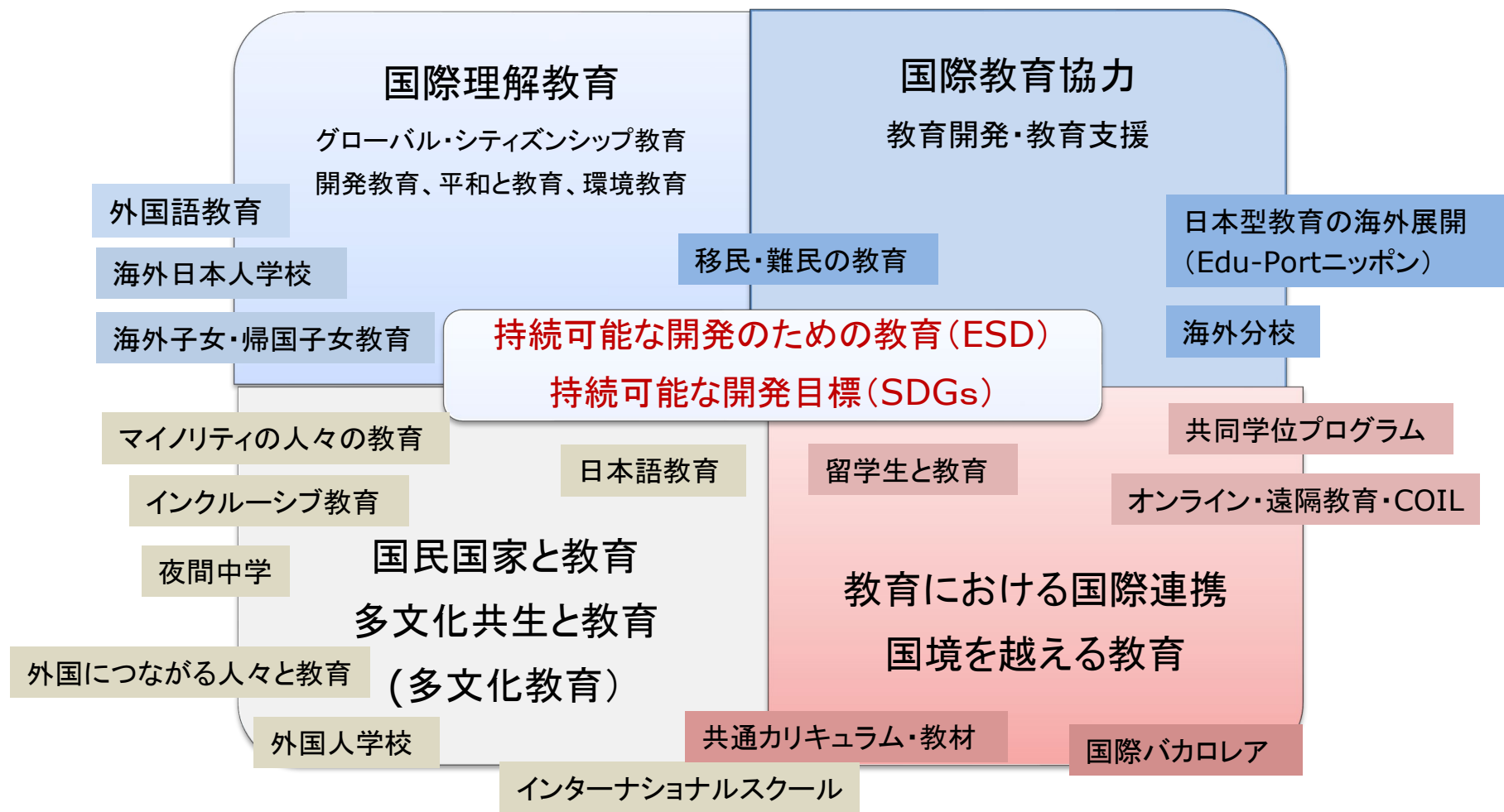


出典:日本学生支援機構「2020(令和2)年度日本人学生留学状況調査結果」2022年3月、1ページの統計

文部科学省「外国人留学生在籍状況調査」及び「日本人の海外留学者数」等について(報道発表)令和4年3月30日、4ページ掲載図

人間の尊厳と平和のための教育

人間の安全保障と教育



持続可能な開発のための目標 (SDGs)

ゴール4 (教育)

4 質の高い教育を
みんなに



目標 4

すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、
生涯学習の機会を促進する

Goal 4

Ensure inclusive and equitable quality education and
promote lifelong learning opportunities for all

4.7

2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする。

SDGsの実現に貢献する「持続可能な開発のための教育（ESD）」

持続可能な開発のための教育(ESD)とは

- ◆ 持続可能な社会の創り手を育むため、現代社会における地球規模の諸課題を自らに関わる問題として主体的に捉え、その解決に向け自分で考え、行動する力を身に付けるとともに、新たな価値観や行動等の変容をもたらすための教育。
- ◆ 国際理解、環境、文化多様性、防災、平和等の個別分野を持続可能な開発の観点から統合した分野横断的な教育。



ESDは、持続可能な社会の創り手の育成を通じ、SDGsのすべてのゴールの実現に寄与

2. 持続可能な開発のための教育は…(中略)…質の高い教育に関する持続可能な開発目標に不可欠な要素であり、その他の全ての持続可能な開発目標の成功への鍵であることを再確認する。
国連総会決議 A/RES/74/223(2020年1月)

【参考】SDGsのゴール4(教育)のうち、ターゲット4. 7

4.7 2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。



ESDをめぐる世界と日本の動き

1987	国連ブルントラント委員会で、「持続可能な開発」の概念が取り上げられた。	
1992	「国連環境開発会議（地球サミット）」において、持続可能な開発についての行動計画「アジェンダ21」に教育の重要性が盛り込まれた。	
2002	ヨハネスブルクサミットにおいて、我が国よりESDの10年を提案し、持続可能な開発に関する世界首脳会議実施計画に盛り込まれた。（9月）第57回国連総会にて、我が国より2005年から2014年までを「国連ESDの10年」とする旨の決議案を提出し、満場一致で採択された。（12月）	
2004		
2005	「国連ESDの10年」の推進機関であるユネスコが「国連ESDの10年国際実施計画案」を策定。（9月）	「国連持続可能な開発のための教育の10年」関係省庁連絡会議を内閣に設置。（12月）
2006		「国連持続可能な開発のための教育の10年」に関する実施計画を策定。（3月）
2007	第4回世界環境教育会議が、南アフリカ・ダーバンにて開催。（7月）第四回環境教育国際会議が、インド・アーメダバードにて開催。（11月）	
2008		ESD国連フォーラム2008を国連大学にて開催。（12月）
2009	国連ESDの10年の中間年に、ドイツ・ボンにおいてESD世界会議を開催。（3月）	

2007 「UNDESDの更なる推進に向けたユネスコへの提言」

2008 「ESDの普及促進のためのユネスコ・スクール活用について提言」
ASPU UnivNet 発足

2009 「ESDの一層の普及及び支援の推進について（建議）」

ユネスコスクール全国大会開始（以降毎年開催）

2012 「ユネスコスクールガイドライン」

2014 「あいち・なごや宣言」ほか

2017.3&2018.3 新学習指導要領公示

2018 第3期教育振興基本計画

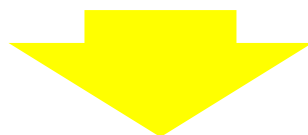
2020～新学習指導要領の実施

2021 ESDに関するユネスコ世界会議
ベルリン宣言

持続可能な開発のための教育：SDGs実現に向けて (ESD for 2030)

「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム(GAP)」(2015年～2019年)

- **目標**: 持続可能な開発の進展を加速するための行動を起こし、拡大すること。
- **優先行動分野**: 特に下記の分野と戦略目標に焦点をあて行動をする。
 - ①政策的支援: ESDを教育と持続可能な開発に関する国際・国内政策へ反映
 - ②機関包括型アプローチ: すべてのレベル、場においてESDの機関包括型アプローチの促進
 - ③教育者: 教育者、トレーナー等の能力強化
 - ④ユース: 持続可能な開発のための変革を進めるユースへの支援
 - ⑤地域コミュニティ: ESDを通じた地域レベルでの課題解決策の探求を加速

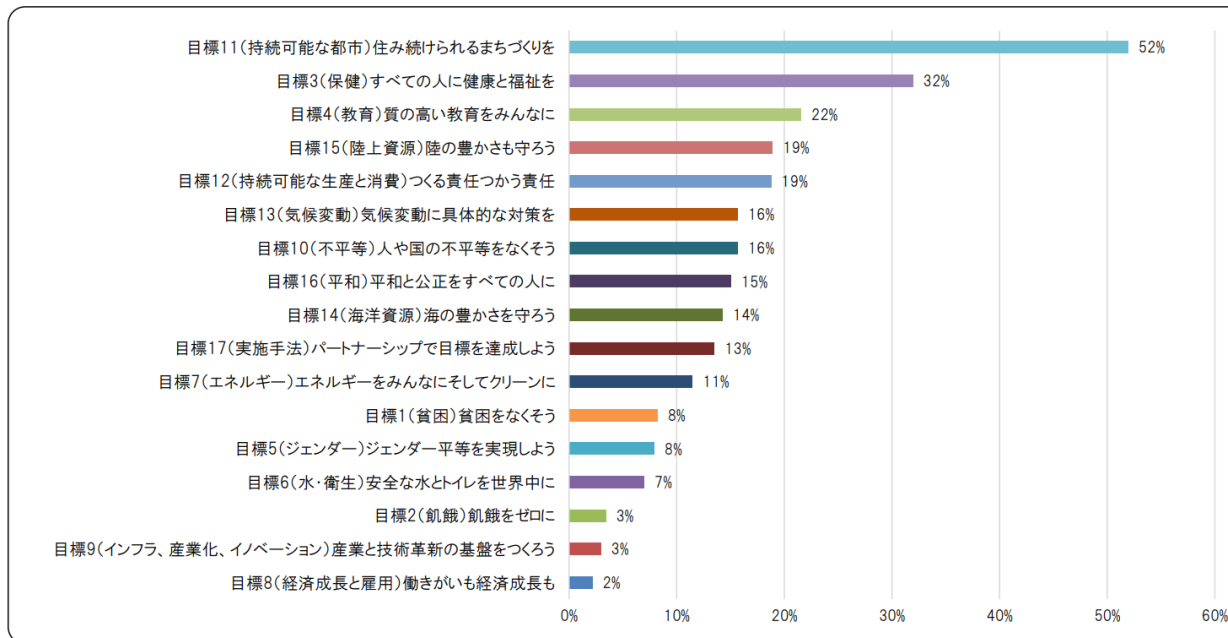


「持続可能な開発のための教育：SDGs実現に向けて(ESD for 2030)」(2020年～2030年)

- **目標**: ESDの強化とSDGsの17の全ての目標実現への貢献を通じて、より公正で持続可能な世界の構築を目指す。
- **特徴**:
 - ①SDGsの17全ての目標実現に向けた教育の役割を強調
 - ②持続可能な開発に向けた大きな変革への重点化
 - ③ユネスコ加盟国によるリーダーシップへの重点化
- **優先行動分野**: GAPの**優先行動分野**は維持しつつ、これまでの教訓を踏まえて一部調整。
- **実施へのメカニズム**:
 - ①国レベルでのESD for 2030の実施 (国内イニシアチブの設定)
 - ②パートナーシップ及び協働の効果的活用
 - ③行動に向けた普及活動
 - ④新たな課題や傾向の追跡
 - ⑤財政資源の動員
 - ⑥進捗モニタリング

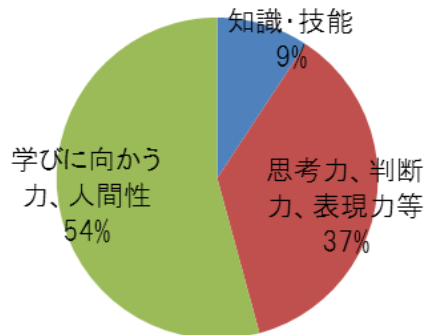
ESDの活動実践と成果

ユネスコスクール活動でとりあげたSDGsの目標



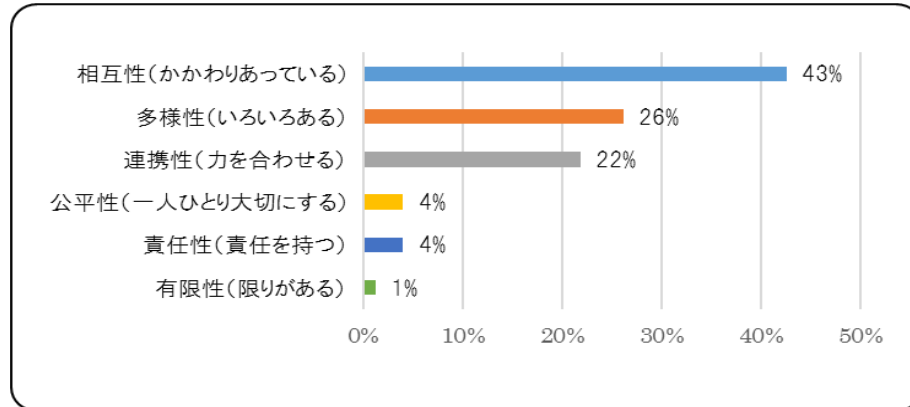
(参考: 2. ② 質問 3) [N=645(※上位 3 つまでを選択)]

最も変化の見られた「資質・能力の三つの柱」



(参考: 2. ② 質問 1 (3)) [N=496]

最も変化の見られた持続可能な社会づくりを構成する6つの視点



(参考: 2. ② 質問 1 (4)) [N=497]

出典: 公益財団法人ユネスコアジア文化センター『ユネスコスクール活動調査(2019年度)』、18-20頁。

未来が求める教育のあり方

ESDとコンピテンシーベースの教育

- * 人間の尊厳を重視し、個人の権利と責任を認識したうえで
現実の社会と向き合うこと
 - * 課題解決に向けて取り組むこと
 - * 異文化間の差異と多様な文化的背景を持つ他者を理解し、
かつ協働できること
-
- * 好きなことを追究して高い専門性や技術力を身に付け、自分自身で課題を設定して、考えを深く掘り下げ、多様な人とコミュニケーションをとりながら、新たな価値やビジョンを創造し、社会課題の解決を図っていく人材（「教育未来創造会議 第一次提言」）



地球規模課題への取り組み

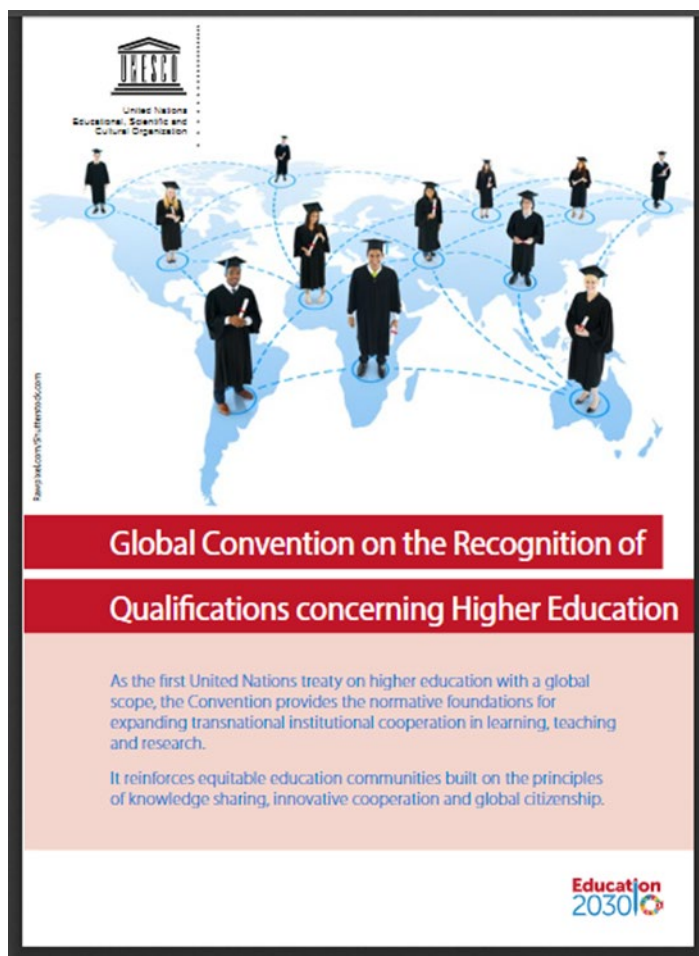
分野横断的・学際的／学融合的な学び

地域連携、産官学連携、リカレント教育を含むキャリア教育

国際連携や協働による教育のネットワーク化



教育の国際連携とネットワーク



ユネスコ「高等教育の資格の承認に関する世界規約」(2019年11月)

国際化、グローバル化の進展と国際移動



多様な教育形態の登場

国際学校の多様化

国境を越えて展開されるクロスボーダー教育

トランスナショナル教育の登場

(例)・高等教育の共同学位プログラム

・海外分校の出現

・多国間連携による教育—アジア高等教育圏の登場

バーチャル教育を含む新しい教育形態の模索

国際通用性や平準化

グローバル・ガバナンス

各国の教育政策との関連

教育の役割と課題

—多様化する社会と人間の尊厳・平和を守るための教育

- 社会的に不遇な立場におかれたマイノリティに教育機会を保障するための教育
- 人々のエンパワーメントをどのように進めるか

- 多文化共生社会のジレンマ: 平等と公正をめぐる問題
 - 多様性をどこまで尊重するか
 - 人間の尊厳を守り、人間の安全保障どのように保持・発展させるか。

- 教育の質保証
- 学修成果の評価

- 国際平準化の動きと各国の教育枠組み

- 国を超える教育枠組みとガバナンス

- 連帯と協働の必要性———教育文化交流
- 経済安全保障

持続可能な未来社会構築に向けた教育

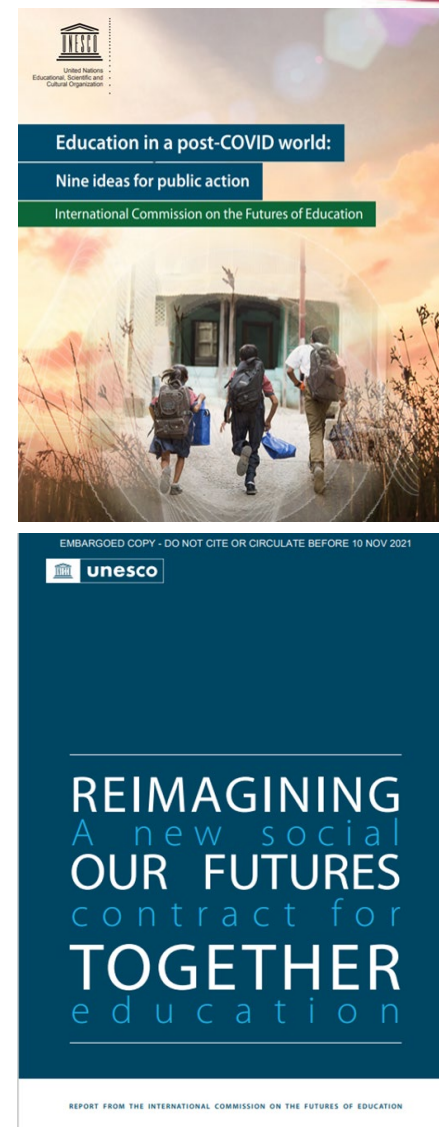
人道的視点と人間の権利に礎をおいた教育の必要性。
公共財として、あらゆる場所のすべての人のために、
グローバルな連帯と協力を礎にしっかりと展開すべき。

新たな現実を見据え、これからの世界をどう再考するか。
持続可能な未来社会に向け、教育が果たすべき責任と
役割は何か。

教育はポストコロナ禍の世界の中心におくべきもの。



様々な社会の格差や多様性、平等・公正性をどう考えるか。
人間の尊厳と平和を重視し、人間の安全保障を守るために
教育はどのような役割を担うべきか。



ユネスコ・「教育の未来」国際委員会の報告書（上）2020年、（下）2021年

Sophia Bringing the World Together

叡智が世界をつなぐ



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY